

1. 授業の概要(ねらい)

本講義では、病と障害の社会学を扱う。社会には、自身とは異なる属性をもった他者が存在する。そして、この社会を営んでいく上では、そうした他者と関わらざるをえない。本講義では、そうした自身とは異なる他者を理解し、共に生きるための技法や思考を学ぶ。とくに今学期は障害に注目し、障害者の生活や障害者運動の歴史を学びながら、異なる身体を生きる人と共に生きていく上で必要な知識・視点を得ていく。また、近年の障害学は、障害と慢性疾患との連続性を踏まえ、理論的な再検討を迫られている。そこで、慢性疾患をめぐる医療社会学にも適宜触れていきたい。なお、講義に対する質問・批判は、講義時間中のほか、インターネット上の質問フォームでも受け付ける。それらの質問を踏まえた議論によっても、受講生の理解を促したい。

2. 授業の到達目標

社会現象としての障害という見方を理解し、説明できること。
障害者運動の歴史や現代における展開を知ること。

3. 成績評価の方法および基準

試験(80%)および授業中の積極的な参加(20%)による。試験は講義で扱った内容を適切に理解し、これに基づいて関連する社会現象を把握する能力を身につけているかを評価する。

4. 教科書・参考文献

参考文献

小川喜道・杉野昭博編著 『よくわかる障害学』 ミネルヴァ書房

榎原賢二郎編著 『障害社会学という視座——社会モデルから社会的反省へ』 新曜社

5. 準備学修の内容

毎回の講義内容をよく復習すること。授業資料を見直し、自分の言葉で説明できることとできないことを腑分けし、後者については質問や授業中に提示する参考文献に触れることを通じて理解し、自らの血肉とされたい。

6. その他履修上の注意事項

講義内容への質問・批判等を通じた積極的な授業参加を期待する。また、他者の学習を妨害する行為は厳に慎まれたい。

7. 授業内容

- 【第1回】 イントロダクション: 授業計画および概略を示し、評価基準について詳説する。
- 【第2回】 理論(1): 医療と障害の社会性; 障害の社会モデルと病人役割
- 【第3回】 理論(2): 障害の社会モデルの批判的検討
- 【第4回】 理論(3): 地域包括ケア時代の医療
- 【第5回】 障害者運動の歴史(1): 青い芝の会
- 【第6回】 障害者運動の歴史(2): 自立生活運動
- 【第7回】 現代の臨床から(1): 資格と専門職
- 【第8回】 ゲスト講義(順番が前後する可能性がある)
- 【第9回】 現代の臨床から(2): 生活史の破断と軌跡の予期
- 【第10回】 病者・障害者が生きる社会(1): 優生思想
- 【第11回】 病者・障害者が生きる社会(2): 合理的配慮
- 【第12回】 科学技術(1): 障害者をとりまく技術
- 【第13回】 科学技術(2): 病者をとりまく技術
- 【第14回】 質疑応答・試験対策: 評価基準について再確認し、試験に向けた学習を支援する。
- 【第15回】 まとめと試験: 上記到達目標が達成されたか否かを確認する。